

理科 第6学年 水よう液の性質 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「見た目が同じ水溶液を、何を根拠に区別できるだろうか」について結果や資料を比べ、当初の説明を確かめ直して、より妥当な考えを表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。A(2)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：教師が種類と濃度を管理した水溶液について、リトマス紙の色の変化、蒸発後に残る物、金属を入れたときの様子を別々の欄に記録する。同じ結果になった欄だけで同一の液と決めず、他の結果も照合する。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。A(2)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：透明だから水、泡が出たから水が沸騰した、と見た目だけで決める反応には、加熱の有無と調べ方を記録に戻って確かめる。金属が見えなくなることと金属が元のまま取り出せることも区別する 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。A(2)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。金属への働きと取り出した物の性質を調べる活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：薬品をなめない。顔を近づけてにおいをかがない。保護眼鏡を使い、薬品の種類・濃度・加熱方法・廃液処理は教師が学校の安全規程と器具説明書に沿って管理する。家庭の洗剤を持ち寄ったり液を混ぜたりしない 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、A(2)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：教師が種類と濃度を管理した水溶液について、リトマス紙の色の変化、蒸発後に残る物、金属を入れたときの様子を別々の欄に記録する。同じ結果になった欄だけで同一の液と決めず、他の結果も照合する。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全13時間は啓林館の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「見た目が同じ水溶液を、何を根拠に区別できるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「見た目が同じ水溶液を、何を根拠に区別できるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。区別できたこととまだ区別できないことをまとめる活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

